様式第３号(第１２条関係)

会　　議　　録

会　議　の　名　称	令和７年度第１回吉川市廃棄物減量等推進審議会
開　催　日　時	令和７年１１月１９日(水)　午後２時００分から 午後３時２０分まで
開　催　場　所	吉川市役所２階２０１会議室
出席委員(者)氏名	松井美枝子委員、桑本潔委員、生田貴之委員、 中村博明委員、岩田京子委員、秦英世委員
欠席委員(者)氏名	海老沼鈴子委員、附田健志委員、池上雅子委員、妹尾百合子委員
担当課職員職氏名	環境課長　安室　晴紀 環境課資源化推進係長　山崎　徹 環境課環境センター所長　森谷　浩幸
会議次第と会議の公開又は非公開の別	１　開会 ２　議事 （１）県内ごみ処理施設の火災事故について （２）令和５年度ごみ処理の実績等について ３　閉会 すべて公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍　聴　者　の　数	なし
会議資料の名称	・次第 ・資料１　令和６年度ごみ処理の実績等について
会議録の作成方法	□録音機器を使用した全文記録 ■録音機器を使用した要点記録 □要点記録
会議録確認指定者	松井委員、生田委員
その他の必要事項	なし

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
１　開　会	――――――――――――――――――《開　　会》――――――――――――――――――
事務局	ただ今より、「令和７年度第１回吉川市廃棄物減量等推進審議会」を開会する。
	――――――――――――――――――《配付資料確認》――――――――――――――――――
事務局	配布資料を確認。
	――――――――――――――――――《会議の公開》――――――――――――――――――
事務局	本日の会議は全て公開で行う。
	――――――――――――――――――《定足数確認（会議の成立)》――――――――――――――――――
事務局	会議開催の定足数である過半数に達しており、会議が成立していることを確認した。
	――――――――――――――――――《議事審議》――――――――――――――――――
	――――――――――――――――――《署名委員の指名》――――――――――――――――――
桑本会長	会議録の署名委員に、松井委員と生田委員の二人を指名。
	（１）県内ごみ処理施設の火災事故について
事務局	事務局より説明
	【事務局説明（略)】
	質疑
秦委員	リチウム蓄電池の対策をいかに練るかがポイントとなると思う。ごみの分別が守られない未回収ごみが増加したため自治会でチラシを作成した。市のカレンダーでは有害ごみの中にリチウム蓄電池の説明があるが、リチウム電池について１つにまとめて出し方を記載した方がいいのではないか。
事務局	周知に当たっては環境省の通知でどういった内容を周知する

	かという項目まで細かく書かれている。全部を記載すると誌面が足らないため、記載内容は検討していきたい。
秦委員	リチウム蓄電池を注意しないで燃やすごみで出してしまう方もいるので、特にリチウム蓄電池については注意を徹底する必要がある。火災の発生の可能性があるという周知で、カレンダーに分かりやすく表示した方がよいという提案である。
事務局	記事の掲載方法については検討したい。現在は、有害ごみにのみ記載しているため、燃やすごみの方に記載するようにするかなど検討したい。１２月の広報にも記事を掲載しているが、啓発を進めたい。
生田委員	有害ごみを収集する回数が少ないので、もう少し簡単に捨てられるようになればと思う。回数が増えるのか、公共施設や家電量販店に協力いただいて捨てられる場所が増えたら、もっと気にするようになるのではないか。施設見学など、目に触れる機会を増やしていくことが必要ではないかと思う。
事務局	環境センターでは、現在、小学校４年生が社会科見学に来ており、そのときにリチウム蓄電池についても説明している。今後も、環境学習においてごみの分別について周知を図っていきたい。
岩田委員	出前講座の実施回数と、廃棄物減量等推進員研修会において、どのような説明をしたか。
事務局	出前講座の回数は近年は年間数回となっている。 研修会では、リチウム蓄電池を使用している製品が増えてい

	るため、具体的な製品例を挙げること、分解をしないこと、電池切れの状態で排出すること、ごみ袋は透明・半透明のものを使って中身が分かるようにすること、発火の危険性や重大事故につながる可能性があることなどを説明し、説明の時間を多く割いている。
岩田委員	推進員に対して、自治会で出前講座を申し込むよう市から促しているか。
事務局	ごみに関する出前講座を設けているので、お声がけいただくようお伝えしているが、積極的に募集することは行っていない。近年は申込件数が少なく、参加者も自治会の役員のみというケースも増えている。
岩田委員	川口市の事故後、東埼玉資源環境組合ではどれくらいの量を受け入れたか。他団体を含めてそれぞれどれくらいの割合で受け入れていたのか。
事務局	川口市の受入当初は点検時期と重なり、受け入れ量が少なかったが、その後は受け入れ量を増やしている。東埼玉資源環境組合がどれくらいの割合であったかについては把握していない。
松井委員	ごみの種類について、月１回の有害ごみは出すごみがたくさんあり、分別するのが大変だと思うので、乾電池とライターとリチウム蓄電池は一緒にしてよいのか。リチウム蓄電池はどういうものが該当するのか分からないので、分かりやすいように広報していただくとよい。

事務局	リチウム蓄電池は、最近は色々なものに使われており、入っているかどうかが分からなくなってきている。充電できるものやコードレスで使えるものはリチウム蓄電池以外かもしれないが、充電池が入っているとお考えいただければと思う。製品名を多く例示しながら広報していきたい。有害ごみの集積所への出し方については、蛍光管についてはケースに入れてくださいと周知しているが、リチウム蓄電池が仮に発火したときに近くに燃えやすいものや爆発する可能性があるものがあると危険なため、なるべく別々にして出していただくのが望ましい。
松井委員	乾電池とスプレー缶は同じ袋に入れて出してよいか。
事務局	基本的に分けていただいた方がよい。
松井委員	半透明の袋に入れてというのも広報いただければ協力していただけると思う。
中村委員	他市では、スプレー缶や乾電池などはケースを置いて収集しているところもある。市ではごみ袋に入れて排出であるが、分別の際に手で袋を開ける必要があり、処理に時間がかかってしまう。ハンディファンや豆電池の発火事例もあり、圧縮されると発火する性質がある。川口市、戸田市や蕨市も国際化が進んでおり、小学校の環境教育も重要だが、国際化への対応も検討が必要である。
事務局	収集の方法については、良い事例がないか情報収集に努めていきたい。国際化については、外国人が関連する問い合わせが増えてきている印象があり、人口のデータを見ても増加しているかと思う。ごみカレンダーの誌面も余裕がないため、外国語

	を併記するとなると今の状況では入らないので、ページ数を増やしてリニューアルすることも検討が必要となっている。現状としては、ごみカレンダーの簡易版のもので、中国語、英語、ベトナム語、ハングル語で作成し、相談があった際に配布したり、ホームページに掲載している。翻訳の協力をいただいて作成しているので、しばらくリニューアルできていないが、今年度に転入時に配布する資料のリニューアルが予定されているので、ごみのマナーについて追加して新しいものを作成する予定である。
秦委員	外国人向けの周知については、ごみのカレンダーの部分をＡ３サイズにして看板を作成して集積所に貼ったところ、効果があった。貼った理由は、近所に外国人の方が住んでおり、ごみの収集日を守っていないということであったが、貼ってからは励行された。曜日と種類だけでも少し日本語が分かれば励行されるので、外国語の前に集積所にペットボトルの捨て方や収集日を掲示するだけでもトラブルは防げるので、参考としてほしい。
	――――――――――――――――《議事審議》――――――――――――――――
	（２）令和６年度ごみ処理の実績等について
事務局	事務局より説明 【事務局説明（略）】
岩田委員	質疑 目標値より実績の方が低いものがあるが、目標を達成しているということか。
事務局	１人１日当たりのごみ総排出量（g/人/日）については、中間

	目標の数値を下回ってはいるが、生活系ごみ、事業系ごみ、集団資源回収量の合計であり、このバランスで成り立っているものなので、全体としてどう捉えるかということになる。
岩田委員	目標値は、目標なのでクリアしたら更新しないといけない。
事務局	一般廃棄物処理基本計画は、令和５年度からスタートし、基本計画に基づいて毎年の実績を報告させていただいている。令和９年度に中間見直しを行って令和１４年度の最終目標に向けて取り組むことになる。委員の次の任期において、中間見直しを進めることになるので、そのときに見直しを検討することになると思う。事業系ごみは、令和６年度に一時的に減少したが、美南駅東口周辺地区の事業所の稼働に伴って影響を受けることもあるので、それらを考慮して中間見直しを行うことになる。
秦委員	一部の集積所で明らかに事業系ごみと思われるごみが捨てられているところが２、３箇所ある。事業所の方に事業所で出たごみは家庭ごみで出すのではなく、事業者自身で処理すべきということについて再度ＰＲをお願いしたい。
事務局	収集の際に明らかに事業所から出されたごみに収集員が気付いた場合には情報提供いただき、事業者が判明したときは訪問して事業系ごみで出すよう指導している。周知についても実施していきたい。
岩田委員	ごみ組成について、紙類が増え、プラが減っている。生活スタイルが変わってきて料理することが少なくなっている中で、プラが増えて厨芥類が減る傾向を見てきていたが、その傾向と違う動きであるが、これをどう捉えているか。

事務局	この組成調査結果は、年間で家庭系が６台程度で、時間帯などは不定期で調査時にランダムに抽出したものの結果であり、地域や季節に影響を受けることもあるかもしれないが、あくまで調査結果を載せただけであり、傾向を捉えたりするには十分な情報量ではないと考えられる。サンプル数が少なすぎてあまり参考にはならない状態である。
	――――――――――――――≪議事の終了≫――――――――――――――
３　閉会	――――――――――――――――《閉会》――――――――――――――――
司会	以上で本日の審議会の内容はすべて終了した。これをもって、会議を閉会する。

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和７年１２月１９日

署名委員　松井　美枝子（自署）　　署名委員　生田　貴之（自署）